

WAR DEPARTMENT

OFFICIAL BUSINESS

PENALTY FOR PRIVATE USE TO AVOID
PAYMENT OF POSTAGE, \$300

~~SECRET~~
3316

~~SECRET~~

本會第 號

會議院

○宮澤胤勇君 私ハ只今上程セラレマシタ
 豫算各案ニ付キマシテ、翼賛議員同盟ヲ代
 表シテ委員長報告ニ賛成セントスル者デア
 リマス、東條内閣が組閣勿々聲明セラレマ
 シタル所、又一昨日來常談場ニ於キマシテ

澤資保

本會第 號

會議院

昭和十六年十一月十九日 本會議
 豫算案討論中
 宮澤胤勇君演說中ノ取消ノ部分

澤資保

本會第

號

衆議院

日	可	決	セ	ラ	レ	タ	ノ	デ	ア	リ	マ	シ	テ	、	此	ノ	豫	算
案	ヲ	全	體	ト	シ	テ	見	マ	ス	ル	時	ニ	、	其	ノ	計	畫	が
果	シ	テ	問	然	ス	ル	所	ナ	キ	モ	ノ	デ	ア	ル	カ	、	其	ノ
規	模	ハ	事	態	ノ	進	展	ニ	伴	ツ	テ	十	分	ナ	ル	モ	ノ	デ
ア	ル	カ	、	其	ノ	運	用	ニ	付	テ	ハ	十	分	ノ	適	切	ナ	ル

淨書係

本會第

號

衆議院

述	ベ	ラ	レ	マ	シ	タ	ル	所	ニ	依	リ	マ	シ	テ	、	臨	時	軍
事	費	各	途	加	豫	算	案	等	ハ	、	何	レ	モ	緊	迫	セ	ル	現
下	外	ノ	情	勢	ニ	即	應	致	シ	マ	シ	テ	立	案	編	成	セ	
ラ	レ	タ	モ	ノ	デ	ア	リ	マ	シ	テ	、	私	共	ノ	十	分	了	承
ス	ル	所	デ	ア	リ	マ	ス	、	臨	時	軍	事	費	ハ	既	ニ	一	昨

淨書係

本會第

號

ノデアリマス

臨時軍事費ハ一昨日本議場ニ於テ可決セ

ラレマシタル追加額三十八億圓之ニ今日

マデノ事變以來ノモノヲ加ヘマズレバ、總

計二百六十一億圓トナルノデアリマス、内

衆議院

淨書係

本會第

號

同意ガセラレテ居ルヤ否ヤノ點ニ至リマシ

テハ、從來政府ノ施設ノ實績ニ鑑ミマシテ

、聊カ懸念セラレル所ガアリマスルノデア

私ハ茲ニ二三ノ意見ヲ述べマシテ、政府ノ

施設ニ萬遺漏ナキコトヲ期シタイト考ヘル

衆議院

淨書係

本會第 號

和十六年度ニ該當スル臨時軍事費ト見、之
 ニ昭和十六年度一般會計ノ歳出中前議會ニ
 於テ成立シマシタ七十九億九千五百萬圓ト
 今同ノ追加額、只今茲ニ上程セラレマシ
 タ五億一千五百萬圓ヲ通計致シマシテ、其

衆議院

淨書係

本會第 號

裏ノ七十六議會ニ於テ成立致シマシタ五十
 八億八千萬圓ト今回ノ三十八億圓トヲ加ヘ
 マスレバ、實ニ九十六億八千萬圓トナリマ
 ス、是が大凡最近ノ一箇年分ニ當ル臨時軍
 事費ト見ララルルノデアリマス、之ヲ假ニ昭

衆議院

淨書係

本會第 號

衆議院

及	ヒ	臨	時	軍	事	費	ト	重	複	セ	ル	分	ヲ	控	除	致	シ	マ
シ	タ	歲	出	ノ	純	計	額	ヲ	之	ニ	加	算	致	シ	マ	ス	レ	ハ
政	府	ノ	支	拂	ハ	昭	和	十	六	年	度	ニ	於	テ	二	百	五	
十	億	圓	ヲ	算	ス	ル	ノ	デ	ア	リ	マ	ス	、	月	額	實	ニ	二
十	億	圓	ヲ	超	エ	ル	コ	ト	ト	ナ	ル	ノ	デ	ア	リ	マ	ス	、

淨書係

本會第 號

衆議院

ノ	間	ノ	重	複	セ	ル	勘	定	ヲ	差	引	キ	マ	シ	テ	モ	本	
年	度	豫	算	額	ハ	併	セ	テ	百	七	十	億	八	千	三	百	萬	圓
ト	ナ	リ	、	政	府	一	箇	月	ノ	支	拂	ハ	一	般	會	計	及	ビ
臨	時	軍	事	費	ヲ	通	シ	テ	月	額	十	四	億	圓	ヲ	超	エ	ル
ノ	デ	ア	リ	マ	ス	、	更	ニ	各	特	別	會	計	中	一	般	會	計

淨書係

本會第 號

万圓トナツテ居リマス、今年一月ヨリ此ノ
十月末ニ至リマスルマデニ發行サレマシタ
公債ハ六十五億八千餘万圓デアリマシテ、
月平均六億五千万圓トナツテ居ルノデアリ
マスガ、今後ハ

衆議院

淨書係

本會第 號

内公債財源ニ依ル額ハ百十一億五千万圓デア
アリマシテ、月當リ九億三千万圓ノ公債カ
發行セラルコトナルデアリマス、昨
昭和十五曆年ノ公債發行額ハ六十六億六千
餘万圓デアリマシテ、一箇月當リ五億五千

衆議院

淨書係

本會第 號

衆議院

マ	ス	事	變	發	生	以	來	ノ	我	ガ	財	政	經	濟	ガ	概	ネ	
順	調	=	運	營	セ	ラ	レ	マ	シ	タ	コ	ト	=	付	テ	ハ	私	
モ	藏	相	ノ	御	演	說	=	同	感	ス	ル	者	デ	ア	リ	マ	ス	
併	シ	ナ	ガ	ラ	ソ	レ	ガ	今	後	モ	同	様	ノ	順	路	ヲ	辿	ル
モ	ノ	ナ	リ	ト	即	斷	致	サ	レ	マ	シ	タ	コ	ト	=	付	テ	ハ

淨書係

本會第 號

衆議院

是	ガ	月	當	リ	十	億	圓	ノ	公	債	カ	發	行	セ	ラ	レ	ル	豫
定	=	ナ	ツ	テ	居	ル	ノ	デ	ア	リ	マ	ス	、	賀	屋	大	藏	大
臣	ハ	一	昨	日	當	議	場	=	於	キ	マ	シ	テ	、	近	年	=	於
ケ	ル	我	ガ	國	經	濟	力	ノ	増	強	ヲ	述	ベ	ラ	レ	、	我	ガ
戰	時	財	政	ノ	健	全	性	ヲ	強	調	セ	ラ	レ	タ	ノ	デ	ア	リ

淨書係

本會第

號

來六七年間ノ

〔發言スル者アリ〕

○議長（小山松壽君）

靜肅ニ願ヒマス

○宮澤胤勇君（續） 我が國ノ貿易ハ極メ

テ順調ナル發達ヲ遂ゲタノデアリマシテ特

衆議院

淨書係

本會第

號

聊カ樂觀ニ過ギルノデハナイカト考ヘルノ

デアリマス、何トナレバ今日マデト今日以

後トハ我が國ノ經濟界ノ基礎條件ニ大ナル

相違ガ存スルノデアリマス、即チ其ノ一ツ

ハ貿易情勢ノ變化デアリマス、金再禁止以

衆議院

淨書係

本會第

號

衆議院

濟界ノ根幹ヲ培養致シマシタカハ洵ニ偉大
 ナルモノガアルノデアリマス、其ノ二ハ、
 事變費及ビ國費充實ニ伴フ所ノ政府資金ノ
 増出ト生産擴充ニ伴フ民間資金ノ動員等ニ
 依リ、一昨日大藏大臣が述べラレタルが如

淨書係

本會第

號

衆議院

昭和十一、十二、十三年ニ至リマシテハ
 金額ニ於テモ未曾有ノ盛況ヲ呈シタコトハ
 私ガ茲ニ數字ヲ舉ゲテ申上ゲルマデモナク
 諸君御承知ノ通りデアリマス、
 シタラドウカレト呼ブ者アリ、是ガ我が國

淨書係

本會第

號

況	ヲ	呈	シ	國	民	ノ	所	得	ハ	累	年	増	加	シ	タ	ノ	デ
ア	リ	マ	ス	然	ル	=	御	承	知	ノ	如	ク	貿	易	情	勢	ハ
昭	和	十	二	年	度	ヨ	リ	變	調	ヲ	呈	シ	マ	シ	テ	本	年
七	月	ノ	英	米	蘭	ノ	資	金	凍	結	後	第	三	國	ノ	貿	
易	情	勢	ハ	休	止	ノ	狀	態	デ	ア	リ	マ	ス				

譯書録

本會第

號

キ	大	ナル	生	産	設	備	ヲ	日	滿	北	支	=	互	リ	建	設	致	
シ	マ	シ	タ	コ	ト	及	ビ	軍	需	品	製	造	等	ノ	為	メ	民	
間	在	庫	物	資	ガ	動	員	ヲ	セ	ラ	レ	是	ガ	活	用	セ	ラ	
レ	タ	コ	ト	等	=	依	ツ	テ	我	ガ	經	濟	界	ハ	異	常	ナ	ル
活																		

譯書録

本會第 號

レマシク所ノ民間ノ

衆議院

淨書係

本會第 號

(發言スル者アリ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○宮澤胤勇君(續) 圓ヲダロツクレ外カ

ラノ物資ノ供給ハ杜絶シタノデアリマス

又從來生産ノ増強ヲ滑カニスル油トモ見ラ

衆議院

淨書係

本會第 號

衆議院

〇議長（小山松壽君）	小田君ニ注意致シ
マ	
ス	
〇石澤胤勇君（續）	過去ノ蓄積ヲ喰盡シ
今後ハ轉廢業ニ伴ツテ	國家ノ保護 同業
ノ失助ニ依ラナケレバ	又狀態テアリマ

淨書係

本會第 號

衆議院

在庫品ハ殆ド動員サレマシテ	殘ル所ノモ
ハ重點主義生産ノ為メ	今日ノ産業設備
管團ニ依リ活用セラレル程度ノモ	テアリ
マ	
ス	
中小商工業者……	
發言スル者アリ	

淨書係

本會第 號

ンテ増税ニ應ジ……

一發言スル者多シ

國民が進ンテ増税ニ應ジ 國民貯蓄ノ増加

致シマシタコトハ 申スマテモナリ之ニ相

應ズル所ノ國民所得ガアツタカラテアリマ

本會第 號

シテ 何レモ我が財政經濟ノ負擔トナルノ

テアリマス (拍手) 是等基礎的要素ノ變化

ヲ前提トシテ 今後ノ我が財政經濟ハ運管

セラレホゲレバナラヌ又ノテアリマス 過去

ニ於テ公債が圓滑ニ消化セラレ 國民が進

衆議院

澤青保

衆議院

澤青保

本會第

號

衆議院

トナリ 二百億トナラネバナリマセス 茲

ニ於テ國民所得ノ増加如何ガ我が財政運営

ノ根本要件トナルノデアリマス

議場騷然

○議長(小山松壽君)

静肅ニ願ヒマス

淨書保

本會第

號

衆議院

不 今後強力ナル國策ノ遂行ニ伴ヒ軍事費

ヲ初メ 政府豫算ノ膨脹ハ必至デアリマス

公債ノ發行ハ更ニ増加スルデアリマセウ

租税ノ負擔ハ一層累加サレルデアリマセウ

隨テ國民貯蓄ノ目標ノ如キ 或八百七十億

淨書保

本會第 號

和十年ニ百五十億圓ト推定セラレ
 米内内
 閣ノ櫻内大蔵大臣ハ昭和十四年ノ國民所得
 推定額ヲ二百五十億圓ト言明致サレタリ
 ギアリマス
 恐ラクハ昨年度及ビ今年ハ三
 百億圓ニ達スルト見テ大ナル相違ハナイト

衆議院

簿書係

本會第 號

○官譯胤勇右(續) 過去ニ於キマシテ我
 ガ事變財政運用ノ全キヲ得マシタコトハ一
 國民所得ノ増大ニ依ルモノアリマス
 (拍手) 我ガ國民所得ハ昭和五年ニ於テ
 内閣統計ヨリ百大億圓ト發表セラレ

衆議院

簿書係

本會第

號

衆議院

儘	=	放	任	シ	テ	ハ	ナ	ラ	ナ	イ	ト	思	フ	ノ	デ	ア	リ	マ	ス
ス	、	茲	=	政	府	ノ	技	術	的	ノ	對	策	ガ	ナ	ケ	レ	バ	ナ	
ラ	ス	ト	思	フ	ノ	デ	ア	リ	マ	ス									

淨書係

本會第

號

衆議院

我	ガ	經	濟	界	ノ	基	礎	條	件	ガ	變	ツ	タ	今	日	、	此	ノ	
マ	シ	タ	ル	如	キ	貿	易	産	業	=	大	ナ	ル	變	化	ガ	生	ジ	
セ	ラ	ル	ル	ノ	デ	ア	リ	マ	セ	ツ	カ	、	私	ハ	前	=	述	ベ	
所	得	ハ	此	ノ	調	子	ヲ	以	テ	増	加	ス	ル	モ	ト	豫	想		
思	フ	ノ	デ	ア	リ	マ	ス			然	ラ	バ	今	後	モ	我	ガ	國	民

淨書係

本會第 號

衆議院

所得	が	得	ラ	レ	ナ	イ	今	日	ニ	於	テ	ハ	國	内	生	産
ヲ	増	強	シ	圓	一	ゴ	ロ	ソ	ク	レ	内	ノ	交	易	ヲ	増
シ	以	テ	國	民	ノ	經	濟	活	動	ヲ	盛	ン	ニ	シ	國	民
所	得	ヲ	増	嵩	ス	ル	ノ	外	ハ	ナ	イ	ノ	デ	ア	リ	マ
生	産	ノ	増	強	ガ	今	後	ノ	我	ガ	財	政	經	濟	政	策
即	チ	根	本	根	本	根	本	根	本	根	本	根	本	根	本	根

淨書保

本會第 號

衆議院

今日	ノ	場	合	若	シ	政	府	が	従	來	通	リ	國	民	ノ	所	得
ハ	増	加	シ	公	債	ハ	容	易	ニ	消	化	シ	増	税	増	増	増
收	ハ	可	能	ナ	リ	ト	衆	觀	サ	レ	テ	ハ	十	ラ	十	イ	ト
ヲ	一	チ	ア	リ	マ	ス	拍	手	一	國	民	所	得	増	大	ノ	對
策	ト	致	シ	マ	シ	テ	ハ	第	三	國	ト	ノ	通	商	ニ	依	ル

淨書保

本會第

號

衆議院

備^借于其ノ生産擴充ハ今日如何ナル状態ニ
 ルカ 國防充實ヲ目標トスル重要物資ノ生
 産擴充ハ事變以前ヨリ日滿地支ヲ通ズル
 實在資源ノ上ニ計畫セラレタリテアリマス
 事變以來高度國防國家建設ヲ目標トシテ、

淨書保

本會第

號

衆議院

本對策トナルノデアリマス

淨書保

本會第 號

頗ル遺憾トスル所デアリマス

〔議場騷然〕

○議長（小山松壽君） 静肅ニ願ヒマス

○宮澤胤勇君（續） 私ノ見ル所ヲ以テス

レハ 今日ニ於キマシテハ此ノ秋ノ國ノ日

衆議院

淨書係

本會第 號

更ニ急速ナル擴充が要請セラレ來タテア

リマス 重要物資ノ生産ハ年々増大ニ事

態ノ變化ニ伴ヒ計畫之幾度カ擴大改訂サレ

タリテアリマスガ 今尚ホ需要セラレル物

資ヲ計畫通りニ供給スル程度ニ達セガハ

衆議院

淨書係

本會第

號

東京商院

○宮澤胤君（續）
 又之ヲ妨ケル他ノ力ニ
 制セラレタト云フコトモ
 ナイト考ヘルノデ
 ナリマス 隨テ此ノ生産
 擴充ガ豫期ノ通ニ
 行ワテ居ラナイト云フ
 コトハ 政府ノ施設
 及ビ運営ガ適切デナ
 カツタト思フノデアリ

伊吉保

本會第

號

東京商院

滿支ヲ含ム里富ナル資源
 ヲ基礎トシ 我ガ
 國ノ技術ヲ以テ生産擴
 充計畫ノ目標ガ過大
 デアツタトハ思ハレ
 ナイトアリマス
 「議場駭然」
 ○議長（小山松壽君）
 靜肅ニ願ヒマス

伊吉保

本會第

號

〔議場騒然〕

押書係

本會第

號

兼 議 院

要	種	今	ニ	マ
問	ノ	日	警	ス
題	種	生	告	此
ニ	ヲ	産	ヲ	ノ
聞	播	撲	與	點
シ	イ	充	ハ	ニ
テ	テ	ト	注	關
ハ	テ	休	意	シ
徒	ア	物	ヲ	テ
ラ	リ	價	促	吾
ニ	マ	政	シ	々
議	ス	策	タ	ハ
論	ガ	カ	ノ	辱
ノ	此	驚	テ	ニ
之	ノ	々	ア	時
多	重	々	リ	ノ
ク	此	々	マ	政
シ	ノ	ル	ス	府
テ	重	議		
テ	論	論		

押書係

本會第 號

シマス

○宮澤胤勇君（續） 第三次近衛内閣が去
ル八月十二日物價審議會ノ諮問ヲ經テ低物
價ト生産擴充ニ關スル件ヲ決定シ、低物價
ト生産擴充ノ二本建ヲ以テ進ムコトニシタ

本會第 號

○議長（小山松壽君） 靜肅ニ願ヒマス

○宮澤胤勇君（續） 實狀ニ即シタ適策ガ
禾ダ少シモ執ラレテ居ラナイノデアリマス

議場騒然

○議長（小山松壽君） 小田君ニ退場ヲ命

静書録

静書録

本會第 號

衆議院

ヲ何ニ依ツテ調整セラレルカト云フニ當
局ノ説明スル所ニ依レバ是ガ調整ハ應急策
トシテハ

議場騒然

○議長（小山松壽君）—— 靜肅ニ願ヒマス

淨書係

本會第 號

衆議院

ノデアリマス 現内閣モ亦之ヲ踏襲セラレ
ルコトハ屢々言明セラレタ所デアリマス
而シテ此ノ低物價ト

○議長（小山松壽君）—— 宮澤君—— 宮澤君

○宮澤胤勇君（續）—— 相反スルニツノ政策

淨書係

本會第 號

ス	ル	ニ	ア	ル	ノ	デ	ア	リ	マ	ス	理	論	ト	シ	テ	ハ	一
應	成	立	ツ	ノ	デ	ア	リ	マ	ス	即	文	産	業	ノ	經	營	合
理	化	ヲ	圖	ル	爲	製	造	工	業	原	價	計	算	要	綱	ヲ	定
メ	一	一	一	一													
○	議	長	〔	小	山	松	壽	〕	宮	澤	君	一	一	一			

本會第 號

シ	戦	時	生	活	ノ	單	純	化	ヲ	極	度	ニ	要	請	セ	ン	ト	
コ	ス	ト	レ	ヲ	引	下	ゲ	他	面	國	民	ノ	消	費	ヲ	規	正	
策	ト	シ	テ	ハ	生	産	配	給	ヲ	合	理	化	シ	テ	其	ノ	一	
施	シ	ツ	ツ	ア	ル	如	キ	補	助	金	政	策	ヲ	採	用	シ	恒	久
○	宮	澤	胤	勇	君	〔	續	〕	石	炭	米	肥	料	等	=			

御書係

御書係

御書係

本會第 號

衆議院

○宮澤胤勇君（續）併テカラ今日ニ於テ
 ハ國家ノ總力ハ國民勤勞ノ總量デアリマス
 生産ノ増強ハ國民ノ働キニ依ツテ生ズルノ
 テヤリマス、國民ノ經濟活動ガ活潑トナリ、
 生産ノ増大スル所國民所得ハ増進スルノデ

評書係

本會第 號

衆議院

○宮澤胤勇君（續） 勞務管理ノ強化！
 ！
 ！
 ！
 「退場ヲ命ジロ」ト呼ビ其ノ他發言
 スル者多シ
 ○議長（小山松壽君） 靜肅ニ願ヒマス

評書係

本會第 號

重大ニシテ根本的ナル問題ニ對シテハ東

條内閣ハ從來ノ行掛リヲ一贊成ノ意ヲ表ス

ルモノデアリマス (拍子)

淨書紙

本會第 號

アリマス、戦用資材ノ供給モ、高度國防國

家ノ建設モ、重要物資ノ生産増強ナクシテ

ハ其ノ目的ヲ達シ難イ、デアリス、戦時

財政ノ圓滑ナル運用ハ、國民所得増進ノ上

ニコソ全キヲ得ルノデアリマス、私ハ此ノ

兼 職 紙

兼 職 紙

本會 第 號

速記擔任者

昭和十六年十一月十九日 本會議
予其案の討論中

宮澤俊彦君演說中
取消の都合

衆議院

本會 第 6 號

速記擔任者

擲言、適切有效ナル 政策ヲ
勇敢ニ 即行サレントシ
望ミテ、追加予算并々口安ホニ
賛成ノ意ヲ表スルモ、
アリマス (拍手)

衆議院速記課

アリスミス、東條内閣が総閣
 勿々聲明セラレマシタル所
 又一昨日来書高議場ニ於キ
 マシテ述べラレマシタル所
 ニ依リマシテ、臨時軍事

○宮澤胤勇君 私ハ只今
 上程セラレマシタル豫算各案
 ニ付キマシテ、翼賛議員同
 盟ヲ代表シテ委員長報告
 ニ賛成セントスル者ナ

本會 第 4 號

速記擔任者

テアリマス、臨時軍事委員
 ハ既ニ昨日御議可決セラ
 レタリテアリマシテ、此ノ豫
 算案ヲ全体トシテ見マス
 時ニ其ノ計畫が果シテ

衆議院速記課

本會 第 4 號

速記擔任者

甚ク各追加豫算案等ハ、
 何レモ取寄迫せん（現下）内外ノ情
 勢ニ即應致シマシテ、
 編成セラレタリマシテ、
 私共十分了承スル所

衆議院速記課

本會 第 5 號

速記擔任者

三して居んや不にやノ點ニ至
 リ之ニテハ、従来政府ノ施
 設ノ實質績ニ鑑ミマシテ、聊
 カ懸念也ヲシん所ノカアリマ
 スレシテ、私ハ茲ニ二三ノ

本會 第 4 號

速記擔任者

聞然スル所トキモ、乃チ
 カ、甚ノ規模ハ事總ノ進
 展ニ伴ヒテ十分ナルヲ
 アルカ、甚ノ運用ニ付テハ
 十分ノ適切ナル用意カ也

本會 第 4 號

速記擔任者

臨時軍費に 昨日本
 議場ニ於テ 可決セラレシメタル
 追加金額 三十一億圓、之ニ
 今日マテノ 事業費ハ未ダ、決
 カラズレバ、總計ニ百六十

衆議院速記課

本會 第 4 號

速記擔任者

意見ヲ述ベアシテ、政府ノ
 施設ニ萬遺漏ナキコトヲ
 期シタイト考ヘンノヲアリ
 ラス

衆議院速記課

本會 第 4 號

速記擔任者

24日
 是が大凡最近ノ一箇年分ニ當ル
 臨時軍事費ト見ラルルノテアリ
 マス之ヲ假ニ昭和十六年度ニ
 該當スル臨時軍事費ト見之ニ
 昭和十六年度一般會計ノ歳出

衆議院速記課

本會 第 4 號

速記擔任者

23日
 信田ヨリナルアリ、内
 量表ノ七十六議會ニ在リ
 致シマシタ五十八億八千万円ト
 三十八億のヨリ加へマシバ、實
 九十六億八千万円ナリト云

衆議院速記課

本會 第 6 號

速記擔任者

勘定ヲ差引キマシテモ、本年度豫
 算額ハ併セテ百七十億八千三百
 万円トナリ、政府一箇月ノ支拂ハ
 一般會計及ヒ臨時軍事費ヲ
 通シテ月額十四億用ヲ超ス

衆議院速記員

本會 第 6 號

速記擔任者

中前議會ニ於テ成立シマシタ
 七十九億九千五百万円ト、今回ノ
 追加額、只今茲ニ上程セラレ
 マシタ五億一千五百万円ヲ通計
 致シマシテ、其ノ間ノ重複セル

衆議院速記員

本會

第4

號

速記擔任者

十六年度ニ於テ二百五十億円ヲ
 算スルノテアリマス、月額實ニ
 二十億円ヲ超エルコトトナル
 ノテアリマス、

本會

第4

號

速記擔任者

ルノテアリマス、更ニ各特別會計中
 一般會計及臨時軍事費ト
 重複セル分ヲ控除致シマシタ
 歳出ノ純計額ヲ之ニ加算致シ
 マスレバ、政府ノ支拂ハ昭
 和

本會

第

〇 號

速記擔任者

十五曆年ノ公債発行額ハ
 亦十六億 六千餘萬トアリ
 二〇二一、
 一箇月當リ五億
 五千万トナリ之レモ
 今年一月ヨリ此ノ十月末

衆議院速記

本會

第

〇 號

速記擔任者

内公債發行額ハ百十
 億 五千万トアリ二〇二一、
 月當リ九億 三千万ト
 公債が發行せられ
 三月ト
 ナリアリ、
 昨 年

衆議院速記

本會 第 〇 號

速記擔任者

是か月當り十億圓十
 億の差引せしむる豫定は十
 千石にありて、如く
 大蔵大臣ハ昨日當議場
 於て、近年の於て

衆議院速記録

本會 第 〇 號

速記擔任者

二五三三三三三三三三三三
 三三三三三三三三三三三三
 千石にありて、近年、月平
 均十億五千万圓に上り
 千石にありて、近年、月平

衆議院速記録

本會 第 4 號

速記擔任者

事変の發生以來ノ我が財政
 經濟が概ネ順調ニ運營
 セラレマシタコトニ付テハ、私モ
 藏相ノ御演説ニ同感スル
 者デアリマス、併シナガラソレガ

衆議院速記課

本會 第 4 號

速記擔任者

我が國經濟力ノ増強ヲ期ス
 ンレ、我が國は然政ノ健全
 性ヲ強調セラルルノ必要アリ
 云々

衆議院速記課

本會 第 4 號

速記擔任者

我國ノ經濟界ノ基礎條件
 ニ大ナル相違ガ存スルノニアリ
 マス、即チ其ノ一ツハ貿易
 情勢カ、變化アリマス、

衆議院速記課

本會 第 4 號

速記擔任者

今後モ同様ノ順路ヲ辿ルモ
 ノナリト即斷致シラマシムト
 ニ付テハ聊カ樂觀ニ過ギルノ
 テハナイカト考ヘルノニアリマス、
 何トナレバ今日ヨリ今日以後トハ

衆議院速記課

○宮澤胤勇君(續) 我カ國ノ

貿易ハ極メテ順調ナル發達ヲ

遂ゲタノテアリマシテ 特ニ昭和

十一、十二、十三年ニ至リマシテ

ハ金額ニ於テモ未曾有ノ盛

十一月十九日

村井 有

情勢ノ變化ヲアリマス、金再

禁止以來六七年間ノ

〔發言スル者アリ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ

願ヒマス

本會 第 5 號

速記擔任者

我が國經濟界ノ根幹ヲ培
 養致シマシタカハ尚ニ偉大
 ナルモノカヤルノテアリマス、
 其ノニハ、事變費及ビ國費
 充實ニ伴フ所ノ政府資金

衆議院速記員

本會 第 5 號

速記擔任者

況ヲ呈シタコトハ私カ茲ニ
 數字ヲ舉ゲテ申上ゲルマテ
 モナク諸君御承知ノ通り
 テアリマス（議長注意ニタラ
 トウカレト呼ハ者アリ）是カ

衆議院速記員

本會 第 5 號

速記擔任者

致シマシタコト、及ビ軍需品
 製造等ノ為メ、民間在庫物
 資ガ動員ヲセラレ、是ガ活
 用セラレタコト等ニ依ツテ我
 ガ經濟界ハ異常ナル活

衆議院速記課

本會 第 5 號

速記擔任者

ノ増出ト生産擴充ニ伴フ
 民間資金ノ動員等ニ依リ、
 一昨日大藏大臣ガ述ベラレ
 タルカ如キ大ナル生産設
 備ヲ日滿北支ニ亘リ建設

衆議院速記課

速記擔任者

米、蘭ノ通貨金凍結後、米三
國ノ貿易情勢ハ休止ノ状
態ナリトス

〔発言スル者多シセシ〕

議長(中山松村君) 靜

衆議院速記員

速記擔任者

況ヲ呈シ、國民ノ所得ハ累
年増加シタリトス。然レ
ニ亦兼知、如ク貿易情勢ハ
昭和十二年度ヨリ變調シ
呈シタリ。本年七月ノ英、

衆議院速記員

肅ニ願ヒマス

本會

第

5號

速記擔任者

衆議院速記録

○高澤胤勇君(賛) 田中君
ク外カラ物資ノ供給ハ杜絶
シタノデアリマス。又從來生産
ノ増強ヲ滑カスル油ト
モ見ラレマス。シタテノ民間ノ

本會

第

5號

速記擔任者

衆議院速記録

業者ハ

「發言スル者アリ」

○議長(小山松村君) 小田君

ニ注意致シマス

○宮澤胤勇君(續) 過去ノ

在庫品ハ殆ト動員サレマシ

夫、残ル所ノモノハ重要點主裁

生産ノ爲メ、今回ノ産業設

備富團ニ依リ活用セラレル程

度ノモノデアリマス、中小商工

本會 第五號

速記擔任者

ルノチアリマス（拍手）是等
 基礎的要素ノ變化ヲ前提
 トシテ、今後ノ我が財政経済
 ハ運送セラレナケレバナラズ又
 ノチアリマス、過去ニ於テ公

衆議院速記員

本會 第五號

速記擔任者

蓄積ヲ喰盡シ、今後ハ轉
 廢業ニ伴フテ、國家ノ保護
 同業ノ共助ニ依ラナケレバナラ
 ズ状態ヲアリマシテ、何レモ
 我が財政経済ノ負擔トナ

衆議院速記員

本會 第 5 號

速記擔任者

夫一ゾモナク之ニ相應スルガ
 ノ國民ガ得ガアツタカラテ
 アリマス、今後強カナル國
 策ノ遂行ニ伴ヒ軍事費
 ヲ初メ、政府予算ノ膨脹

衆議院速記部

本會 第 5 號

速記擔任者

債が円滑ニ消化セリ、國民
 が進ニテ増税ニ應ジ……
 (發言スル者多シ) 國民が進
 ニテ増税ニ應ジ、國民貯蓄
 ノ増加致シマシタフトハ、申

衆議院速記部

本會 第 〇 號

速記擔任者

百七十億トナリ、二百億トナ
ラネバナリトセ又、

衆議院速記録

本會 第 〇 號

速記擔任者

ハ必至ナリトス、公債ノ充
行ハ更ニ増加スルヲアリトセ
ウ、租税ノ負擔ハ一層累
加サレシメアリトセウ、隨テ國
民貯蓄ノ目標ノ如キ或ハ

衆議院速記録

本會 第 5 號

速記擔任者

願ヒマス

の宮澤胤勇君 (續) 過去

於中マシテ我が事変財政運用ノ

全キヲ得マシタコトハ一ニ國民所得

ノ増大ニ依ルモノデアリマス (拍手)

衆議院速記録

本會 第 5 號

速記擔任者

茲ニ於テ國民所得ノ増加

如何ガ我が財政運営ノ根本

要件トナルノデアリマス

〔議場騒然〕

議長(小山松壽君) 靜事ニ

衆議院速記録

22 頁

大臣ハ昭和十四年ノ玉民所得
^{推定}額ヲ二百五十五億圓ト言明
 致サレタノデアリマス、恐ラクハ
 昨年及^七今年ハ三百億圓ニ
 違スルト見テ大ナル相違ハナ

21 頁

我が玉民所得ハ昭和五年
 ニ於テ、内閣統計局ヨリ百
 六億圓ト発表セラレ、昭和
 十年ニ百五十億圓ト推定セ
 ラレ、米内内閣ノ櫻内大臣

易產業ニ大ナル變化ガ生ジ、
 我ガ經濟界ノ基礎條件ガ
 變ツタ今日、此ノ儘ニ放任シテ
 ハナラナイト思フシヤリマス、
 茲ニ政府ノ抜本的ノ對策ガ

イト思フニテアリマス、然ルニハ
 今後モ我ガ玉民所得ハ此ノ
 調子ヲ以テ増加スルモノト豫
 想セラルルデアリマセウカ、
 私ハ前ニ述べマシタル如キ質

本會

第5號

速記擔任者

今日ノ場合若シ政府が從來通り
 國民ノ所得ハ増加シ、公債ハ
 容易ニ消化シ、増税増收ハ可
 能ナリト樂觀サレテハナラ
 ナイト思フノヤリマス(拍手)

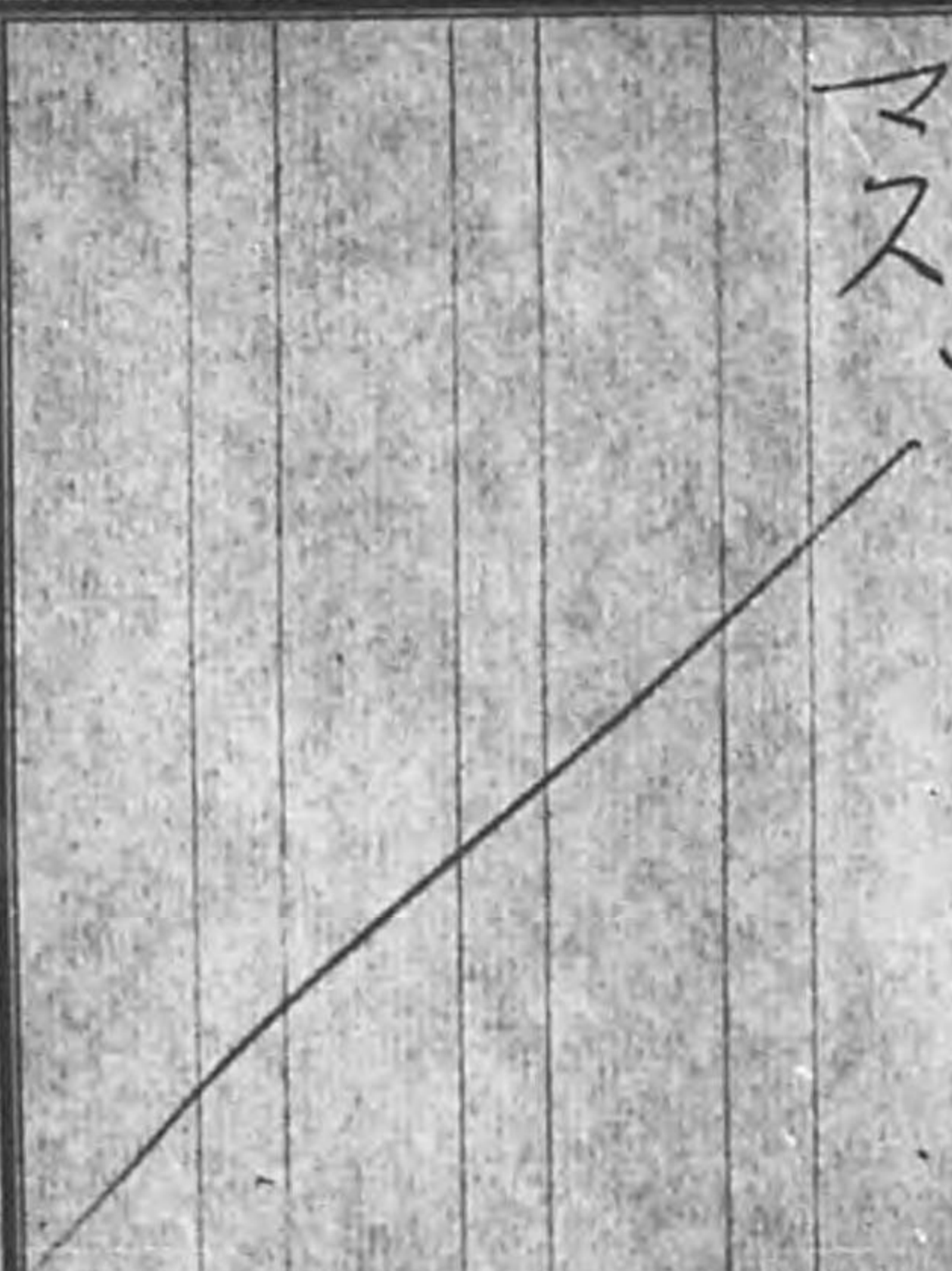
衆議院速記課

本會

第5號

速記擔任者

ナケレバナラヌト思フテアリ
 マス、



衆議院速記課

本會 第五號

速記擔任者

以下國民ノ經濟活動ヲ盛
 ニシ、國民所得ヲ增高スルノ
 外ハナイノ形アリマス、即チ
 生産ノ增強カ今後ノ我々
 財政經濟政策ノ根本對

衆議院速記員

本會 第五號

速記擔任者

國民所得増大ノ対策ト致
 シ、是ハ三國トノ通商ニ依
 リ所得カ得ラレナイ今日ニ於
 テハ、國內生産ヲ增強シ、因
 於「ワック」内ノ交易ヲ増進

衆議院速記員

本會 第一號

速記擔任者

備了其ノ生産擴充ハ今日
 如何ナル状態ニアルカ、國防
 充美ヲ目標トスル重要
 物資ノ生産擴充ハ事業
 以前より日滿北支ヲ通ル

衆議院速記員

本會 第一號

速記擔任者

第一ノ事トシテ、

衆議院速記員

本會 第 5 號

速記擔任者

リ了ス、重要物産ノ生産ハ
 年々増大シ、事勢ノ変化
 二伴ヒ^{計畫}築度力増大改訂サ
 レタノ事アリ、今尚
 未需要セザル物産ヲ計畫

衆議院速記員

本會 第 5 號

速記擔任者

是在 資源ノ上ニ計畫セリ
 レタノ事アリ、事變以來
 高度国防 國家建設ヲ目
 標トシテ、更ニ急進ナル擴
 充が要請セザル来、今尚

衆議院速記員

本會

第

5 號

速記擔任者

〔議場騷然〕

○議長（小山松壽君）

靜南

二難也又

○宮澤胤面力君（続）

和ノ

見の所ヲ以テスレハ、今日ニ

衆議院速記

本會

第

5 號

速記擔任者

通リニ供給スル程度ニ達

セザルハ頗ル遺憾トスル所

アリシ

衆議院速記

本會

第 5 號

速記擔任者

ノデアリマス

〔議場騒然〕

議長(小山松壽君)

静

肅之願也

衆議院速記録

本會

第 5 號

速記擔任者

於中マニテハ此ノ我が國ノ日

滿支ノ富々豊々富々以資源ヲ

基礎トシ、我が國ノ技術ヲ以

テシテ生産擴充計画ノ目標

加過大デアワタトハ思ハレナイ

衆議院速記録

議論ノ種ヲ播キテ居ルノ
ニアリマスガ、此ノ重要因
題ニ関シテハ徒ラニ議論ノミ
多クモテ、……

ハ 議場 騒然也

アリマス、此ノ實ニ南ニシテ
吾々ハ屢々時ノ政府ニ
警告ヲ与ヘ、注意ヲ促シテ
ムテアリマス、今日生産拡充
ト低物價政策ガ器々タル

本會 第5號

速記擔任者

「議場騒然」

○議長(小山松壽君) 小田

君ニ退場ヲ命ジタス

○宮澤胤勇君(續) 近衛外

閣か去ん八月十二日物價審

衆議院速記課

本會 第5號

速記擔任者

○議長(小山松壽君) 靜

肅ニ願ヒマス

○宮澤胤勇君(續) 笑

狀ニ脚ニシテ通策ガ未ダ少

シモ執ラシテ居テアリス

衆議院速記課

ラレルコトハ屢言明セラレタ所アリ
 アリマス、而テ此ノ低物價ト……
 ○議長(小山松壽君) 宮澤君
 宮澤君

議會ノ諮問ヲ經テ低物
 價ト生産擴充ニ関スル件ヲ決
 定シ低物價ト生産擴充ノ二本
 建ヲ以テ進ムコトニシタノヲアリ
 又、現行關毛亦少ク踏襲セ

本會 第5號

速記擔任者

乙子ハ

「議場豁然」

○議長(十山松壽君)

静肅

願ヒマス

○宮澤胤重君(続) 石炭

衆議院速記録

本會 第5號

速記擔任者

○宮澤胤重君(続) 相反スル

ニツノ政策ヲ何ニ依リテ調

整正セラルルカト云フニ

局ノ説明スル所ニ依レハ

是ガ調整ハ應急策ト

衆議院速記録

48頁

費ヲ規正シ、戦時生活ノ
 單純化ヲ極度ニ要請セ
 ントスルニアルノ事アリ
 理論トシテハ一應成立
 アリ、即チ産業界ノ經營

⑤

47頁

米、肥料等ニ施シ
 補即金政策ヲ採用シ
 業トシテハ生産配給ヲ
 合理化シテ、其ノ
 引下ケ、他面國民ノ消

速記擔任者

○宮澤胤勇方君(續) 労務

管理ノ強化……

「退場ヲ命ジロト呼ビ其ノ

他発言スル者多シ」

○議長(小山松壽君) 静肅

衆議院速記録

十一月十九日

速記擔任者 坂内土屋保

経済界ノ合理化ヲ圖ル爲メ、

製造工業ノ原價ノ計算并要

綱ヲ定メ……

○議長(小山松壽君) 宮澤

君、
~~……~~

衆議院速記録

本會 第 6 號

速記擔任者

キニ依リテ生スルノテアリマス、
 國民ノ経済活動カ活潑ト
 ナリ、生産ノ増大スル所
 國民所得ハ増進スルノテ
 アリマス、戦用資材ノ供

衆議院速記員

本會 第 6 號

速記擔任者

ニ願ヒマス
 ○宮澤胤勇君(續)係十カウ
 今日ニ於テハ國家ノ総力ハ
 國民勤勞ノ総量テアリマス、
 生産ノ増強ハ國民ノ働

衆議院速記員

速記擔任者

ハ、國民所得増進ノ上ニ
 ソ全キヲ得ルノデアリマス、私
 ハ此ノ重大ニシテ根本的ナ
 ル問題ニ対シテハ、東條
 内閣ハ從來ノ行掛リヲ一

衆議院速記課

速記擔任者

給モ、高度國防國家ノ
 建設モ、重要物資ノ
 生産増強ナクシテハ其ノ自
 的ヲ達シ難イノデアリマス、
 戰時財政ノ日滑ナル運用

衆議院速記課

Doc. 3315 Evid.

Folder 7

(6)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 3315

25 October 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Loose shorthand record "Expunged Portion of MIYAZAWA, Taneo's Speech during the Interpellation on the Budget in the Plenary Session of House of Representatives, 77th Diet Session."

Date: 19 November 1941 Original Copy Language: Jap.

Has it been translated? Yes No

LOCATION OF ORIGINAL: Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Diet.

PERSONS IMPLICATED: MIYAZAWA, Taneo; TOJO, Hideki; KAYA, Okinori.

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Conspiracy and Preparation for Greater East Asia War.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS:

The expunged portion of the speech concerned Premier TOJO's remarks that the various supplementary budgets were drafted for meeting the critical international situation and Finance Minister KAYA's statement that Japan is financially sound and she will remain so because of her financial record in the China Incident. This speech of MIYAZAWA, however, brings to attention the fact that Japan was able to import all necessary war materials before. He said as follows:

"Now, with the embargo and the freezing of foreign funds, this becomes impossible. Moreover, the stockpiles of critical materials has already been used for war preparations. Under these circumstances, we should expect a drastic policy for the present situation by the TOJO Cabinet."

Analyst:
1st Lt. Fred F. Suzukawa

Doc. No. 3315

Can our national income be expected to increase at this pace? I think things must not be left to take their own course, now that a great change has taken place in our trade and industry, and fundamental conditions of our national economy have altered, as I said above. Hereupon I think there must be thorough-going (brutic) counter-measures on the part of the government.

At this juncture, I think the government must not be so optimistic as to think that ^{our} national income will go ^{on} increasing as hitherto, that national bonds will be digested easily, and that increase of taxes and revenues is possible (Cheers.)

As regards the measures for increasing our national income at the present time when income cannot be expected from trade with third Powers, there is nothing to be done ~~for it~~ but to increase and intensify our domestic ~~and~~ ^{to increase trade within the YEN bloc, and} production, thereby to encourage the economic activities of the nation and to increase our national income. In short, increase of our national income is the fundamental condition of our financial and economic policy in future."

No. 6, pp. 4-7

Neither the supply of war materials, nor the establishment of the "high-gearred defense state"

can be achieved without an increase of production of strategic materials. Smooth operation of wartime finance can only be thoroughly attained on the basis of increase of our national income.

Vis a vis this important and fundamental problem,

I hope ^{the} TOJO Cabinet will, ^{daringly} carry proper and efficient measures into immediate execution, ~~irrespective~~ ^{irrespective} of ~~past~~ ^{past} circumstances. With that reservation, I

support these Supplementary Budget Bills. (Clipping
(applause) ²⁾
p hands)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION
DOCUMENT DIVISION

18 November 1947

MEMORANDUM TO: Mr. Oneto

SUBJECT : IPS Document 3315

The following is an additional portion of MIYAZAWA's speech which somewhat clarifies the meaning of "...should expect a drastic policy..."

No. 6, pp 23-28 "...Can our national income be expected to increase at this pace? I think things must not be left to take their own course, now that a great change has taken place in our trade and industry, and fundamental conditions of our national economy have altered, as I said above. Hereupon I think there must be thorough-going (drastic) counter-measures on the part of the government.

At this juncture, I think the government must not be so optimistic as to think that our national income will go on increasing as hitherto, that national bonds will be digested easily, and that increase of taxes and revenues is possible. (Cheers)

As regards the measures for increasing our national income at the present time when income cannot be expected from trade with third powers, there is nothing to be done but to increase and intensify our domestic production, to increase trade within the yen bloc, and thereby to encourage the economic activities of the nation and to increase our national income. In short, increase of our national income is the fundamental condition of our financial and economic policy in future."

No. 6, pp 4-7 "Neither the supply of war materials, nor the establishment of the 'high-g geared defense state' can be achieved without an increase of production of strategic materials. Smooth operation of wartime finance can only be thoroughly attained on the basis of increase of our national income. Vis a vis this important and fundamental problem, I hope the Tejo Cabinet will daringly carry proper and efficient measures into immediate execution, irrespective of past circumstances. With that reservation, I support these Supplementary Budget Bills. (Applause)"

JAMES HOYT
Chief, Scanning Unit